

1 題 材 買い物しよう ―金銭―

2 題材について

(1) 設定理由

- 本グループは3年生3名で構成されている。個別の指示を必要とすることもあるが、見通しを持って活動に取り組むことができ、興味・関心のある活動については、自分から取り組むことができる。また、自分の思っていることや困っていることを言葉にして伝えることができる。
- 数量に関しては、3名とも繰り上がり繰り下がりのある計算ができる。実際の場面では、ランニングのタイム短縮について考えたり、集団の人数が増えた分、いすを何脚多く準備するか分かって出したりすることができる。しかし、金銭に関しては、普段大きな金額を扱ったり、たくさんの貨幣の中から支払ったりすることが少なく、抵抗を感じたり苦手意識を持つことがある。硬貨や紙幣だけの現金を正しく数えられる生徒でも二つ以上の金種が混在すると、数えられなくなってしまうこともある。このような実態から、数量に関する力を活用して金銭学習に取り組むことは大切なことだと考える。
- 本実態にかかわる学習指導要領の観点は、特別支援学校学習指導要領中学部数学では、「金銭や時計・暦などの使い方に慣れる」(実務)である。指導内容としては、貨幣の種類を指導し、現金が正しく数えられるようにするとともに、両替などの等価関係についての理解を図り、実際の金銭を処理する場を設けることが示されている。
- そこで本題材では、貨幣を使って、正しく数えたり両替をしたりするなどのやり取り(支払い、釣り銭)を行い、活動の中では高額な紙幣に触れる機会やいろいろな硬貨を数えたりする活動を設定した。3名の興味や関心がより高まるよう本物のレジを使用し、生徒が店員や客になった買い物の活動を設定して、金銭のやり取りや両替が行えるようにした。このような活動をとおして、社会生活に必要な買い物の場面において、現金を適切に出す、釣り銭をきちんともらって確認する、購入金額以上の金額を支払う場合の概算ができるとともに、将来の貯金や小遣い帳へ関心につなげ、金銭を自己管理できるきっかけになって欲しいと考え、本題材を設定した。

(2) 生徒の実態

氏名等	数量・金銭に関して	学習態度・行動特徴など
A	教師と一緒に確認をしながら、2桁の繰り上がりの加法の計算ができる。(金額の計算も同様)金額の大小が分かり、少額であれば混在した硬貨を数えることができるが、5円硬貨と50円硬貨の理解が難しい。	励ましや促しを受けることで、難しい課題にもあきらめずに取り組むことができる。
B	筆算や暗算で繰り上がり、繰り下がりの計算ができる。(金額の計算も同様)全ての金銭の等価関係が分かるが、紙幣や硬貨の枚数が多く混在すると、数え間違ふことがある。	活動に対して慎重であるために自分のペースになりがちであるが、できることは正確に速く取り組むよう言葉かけをすると、意識して行うことができる。
C	式に書き表し暗算で繰り上がり、繰り下がりの計算ができる。(金額の計算も同様)全ての金銭の等価関係が分かるが、紙幣や硬貨の枚数が多く混在すると、数え間違ふことがある。	活動中に周囲を見回したり一点を見つめたりすることがあるが、言葉かけにより再び活動に戻ることができる。数に対する興味・関心が高い。

(3) 個別目標

氏名	個別目標	学習指導要領
A	両替や支払いができる。	特「実務」
B	購入金額以上の金額の概算やお釣りの計算ができる。	特「実務」
C	いろいろな金種を使って支払いができる。	特「実務」

3 指導計画 (30時間取扱い：1単位40分)

第1次	お金の種類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2時間
第2次	お金を数えてみよう・・・・・・・・・・・・・・・・	9時間
第3次	両替をしてみよう・・・・・・・・・・・・・・・・	4時間
第4次	客になって買い物をしよう・・・・・・・・	5時間

第5次 店員になって品物を売ろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5時間（本時は第2時）

第6次 客と店員になろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5時間

改善テーマ	両替や等価関係を分かりやすくするための教材・教具の工夫	
	課題点	改善点
	等価関係に苦手意識を持つ生徒がいる。教師が見守ることで安心してできる課題でも、一人になると自信がなくなり、教師の言葉かけや促しを待っていることがある。一つ一つのことに自信を持ち、自分一人の力でできる教材・教具を工夫する必要がある。	実際に硬貨や紙幣を扱うことで、お金に触れる場を設ける。等価関係が分かりやすいように、補助シートを提示し、それを手がかりに自分一人の力でできるようにした。また、簡単な両替も補助シートを手がかりに、一人でもできるようにした。

4 本時の指導

(1) 個別目標

- 補助シートを手がかりに、簡単な両替ができる。 (A)
- 見守りを受けて、指定された金種を含めたいろいろな金種を使い、釣り銭を作ることができる。 (B)
- 言葉かけ、指定された金種を含めたいろいろな金種を使い、釣り銭を作ることができる。 (C)

(2) 準備・資料 補助シート、紙幣、硬貨、財布、ワークシート、ショップ用品

(3) 展開

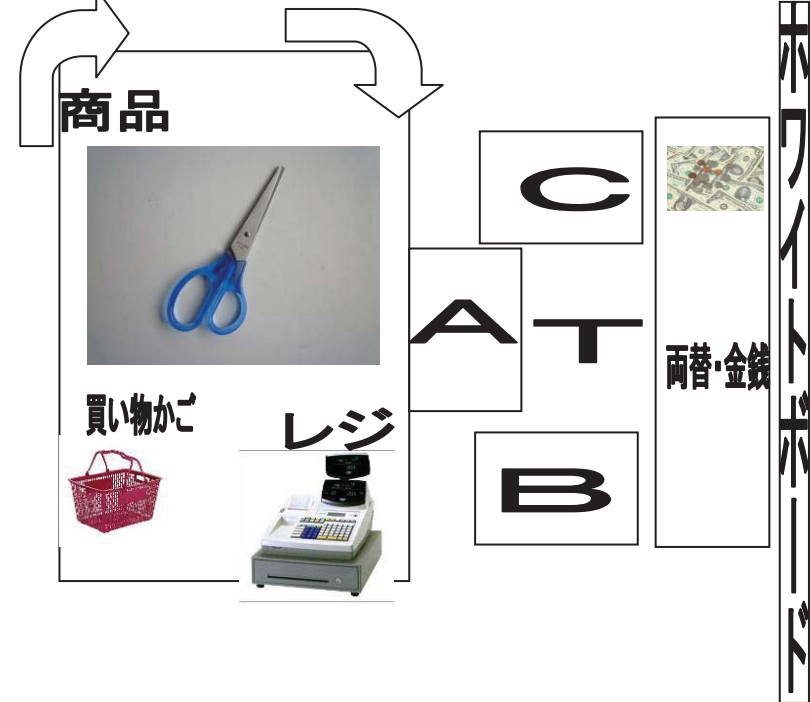
⇒評価の観点

時間	学習内容・活動	指導・支援上の留意点
2	1 本時の学習内容について知る。 (1) 始まりのあいさつをする (2) 学習内容を聞く	<ul style="list-style-type: none"> ・きちんとした姿勢であいさつをし、始まりを意識できるようにする。 ・学習内容を掲示することで、活動に見通しが持てるようにする。 ・姿勢や机上の準備物を確認し、約束を意識して学習できるように促す。
5	2 前時の確認をする。 (1) レジの使い方 (2) やり取りの確認 (3) 金銭の受け取り方 (4) 釣り銭の渡し方	<ul style="list-style-type: none"> ・金額を入力する順番が書かれたレジ補助シートを用いて、レジの使い方の確認ができるよう促す。 ・話し方のポイントをカードで提示し、意識できるようにする。 ・相手に分かるような話し方ができるよう、声量や速さが意識できるような言葉かけをする。 ・Bには、決められたやり取り以外はしないよう、約束を意識できるような言葉かけをする。 ・Cには、ゆっくりはっきり話すよう、意識できるような言葉かけを行う。 ・Aには、相手の目を見て話をしたり聞いたり、意識できるような言葉かけを行う。
30	3 やってみよう。 (1) 客の時に使う財布の所持金を数える (2) レジの釣り銭の準備をする A (両替) ・ 1円硬貨：20円分 ・ 5円硬貨：60円分 ・ 50円硬貨：250円分 B ・ 1000円紙幣：10000円分 ・ 100円硬貨：2000円分	<ul style="list-style-type: none"> ・所持金の確認後、どの金種を自分が持っているのか確認できるような言葉かけを行い、金額をワークシートに記入するように促す。 ・Aが指定された金額を両替できない時には、補助シートを渡し、見ながら考えられるようにする。 ⇒補助シートを用いて両替できたか。 ・Bには、釣り銭の準備が終わってから自分で再確認ができるよう、活動の前に言葉かけを行う。 ・確認が自分から難しい時には、促しをすることで確認ができ

3	<ul style="list-style-type: none"> 500円硬貨：2000円分 S・A 5000円紙幣：5000円分 10円硬貨：350円分 釣り銭の合計を確認する。 <p>(3) 店員になって品物を売る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 客役の生徒は、買い物リストを参考に品物を探す。 	<p>るようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> Cには、硬貨をかごに入れながら数えるよう、言葉かけを行う。 机上に硬貨を並べてしまう時には、かごに入れて数えるよう、言葉かけを行う。 Aには、釣り銭を作る際、丁寧にゆっくり硬貨を数えるよう、言葉かけを行う。 2での確認事項について、意識できるような言葉かけを行う。 Bには、釣り銭を作る際、ポイントとなることを事前に確認し、活動に取り組めるようにする。 <p>⇒事前の確認で、釣り銭を一人で作ることができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> Cは、指定された金銭を意識できるような言葉かけをし、釣り銭を作るようにする。 <p>⇒言葉かけを受け、釣り銭を作ることができたか。</p>
	<p>4 本時のまとめをする。</p> <p>(1) 本時の学習内容を振り返る。</p> <p>(2) 終わりのあいさつをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容を振り返ることで、次時への活動に見通しが持てるようにする。 きちんとした姿勢であいさつをし、終わりを意識できるようにする。

店員	客
A	B, C
B	C, A
C	A, B

<配置図>



<補助シート>

